

【2019 年度決算 補足説明資料】

1. 2019 年度決算実績

< P 4 ~ 1 1 >

- 売上高は卸供給等の販売量の増加等により、3期連続の増収となりました。
- 営業利益・経常利益は4期ぶりの増益、当期純利益は3期ぶりの増益となりました。経常増益の要因は、主に原料価格の低下（スライドタイムラグ）によるもので、その他に2018年7月に発生した西日本豪雨災害影響の剥落や廿日市工場隣地からの熱融通の開始等によるコスト削減です。
- 2020年度（2021年3月期）の連結業績予想は、新型コロナウイルス感染症による影響を、現時点において合理的に算定することが困難であるため「未定」としています。
- 2020年度の株主さまへの配当は、年間9円を予定しています。

2. 広島ガスグループ 2030 年ビジョン

< P 1 3 ~ 1 5 >

- 「幸せにつながる感動発信」をスローガンに、4つの基本方針と6つの基本戦略を掲げ、2030年の目指す姿の実現に向け、さらなるエネルギー事業の強化に取り組めます。
- グループ全体の収益性と安全性を高め、強靱な企業グループを構築するとともに、持続的な発展を目指します。

3. 中期経営計画

< P 1 7 ~ 1 9 >

- 2019年度ガス需給計画にて、LNG販売等を含めた販売量では、2020ビジョンで掲げた6億m³を1年前倒しで達成しました。
- 設備投資計画については、都市ガス事業では、需要の拡大に対応し、安定供給のベースとなる製造、供給インフラの整備、LPG事業では、コミュニティーガス団地における経年劣化した導管をPE管等、耐震性の高い導管への取替促進など、保安対策を実施してまいります。

4. トピックス

< P 2 1 ~ 2 3 : 各種サービスの充実 >

- 2017年4月のガス小売全面自由化以降、当社供給エリアでは新規事業者の参入はありませんが、今後もお客さまから選択していただけるよう、ポイントサービスをはじめ新たな料金サービス等を実施しています。

< P 2 4 ~ 2 9 : 新規事業等への取り組み >

- 2030ビジョンに掲げる地域貢献や新たな事業収益基盤の構築を念頭に、バイオマス混焼発電事業をはじめ、北米発電事業への出資や東広島市地域新電力事業への参画等を行っています。

< P 3 0 ~ 3 1 : CSRへの取り組み >

- 広島に根差した企業として、当地で様々な社会貢献活動を実施しています。今後も引き続き、積極的にCSRに取り組みます。

< P 3 2 : 創 立 1 1 0 周 年 記 念 事 業 >

- 当社は2019年10月30日に創立110周年を迎え、いくつかの記念事業を実施いたしました。これもひとえに広島ガスグループをご愛顧いただいているお客さま、株主さま、ご関係の皆さまのひとかたならぬご支援、ご指導の賜物であると深く感謝しています。

以 上